

## 遺伝学若手の会研究交流会 Vol.3「どうする?!若手のキャリア問題」

### ●概要

2022年3月27日国立遺伝学研究所にて、第三回研究交流会キャリアパスセッション「どうする?!若手のキャリア問題」を開催いたしました。当会として初の試みとなるキャリア講演会、そして4名の講師の皆様とのパネルディスカッションを実施しました。



左: 市原先生のご講演の様子



右: 片岡先生のご講演に対して、参加者から質問が上がった様子

セッションの前半では、講師の皆様にご自身が歩まれたキャリアについて、20分ほどのご講演をいただきました。市原沙也先生(遺伝研、ポスドク)には、学位取得の苦労やキャリア形成に対してあった金銭的不安など、昨年まで学生でおられた視点からお話をいただき、参加者の中には頷く学生も多く見られました。続いて、片岡研介先生(基生研、助教)にはユーモアを混ぜつつ、ポスドクとして働くにあたってのテーマ選びから、海外で初めてのポスドクを経験することについてお話をいただきました。また、三好知一郎先生(RIKEN、チームリーダー)には、研究に対するご自身の興味の変遷に基づいた、キャリア選択についてお話いただきました。片岡先生、三好先生のお二人は留学期間中のパートナーのキャリアについても触れ、お互いのキャリアを尊重しながら過ごす生活をご紹介いただきました。海外で生活をした研究者ならではの結婚・育児についての体験談に、感嘆の声も上がり熱心にメモをとられる参加者の方もいらっしゃいました。講演会の最後には、平田たつみ先生(遺伝研、教授)にご自身の生活と研究の大きな変化について、そして研究者としてキャリアを積もうとしている参加者に向けての大きく二つのテーマでお話いただきました。男女問わず研究者として生きていくには無視できない研究環境の変化、それに伴う転居、そして女性研究者ならではの出産・育児について、ご自身の行動を振り返りながら、若い世代へ「プロの研究者になれ」と熱いメッセージをいただきました。



セッションの後半では4名の講師の方に登壇いただき、事前に参加者の皆様から上がったキャリアパスに関する質問に対して、パネルディスカッションを行いました。

今後若手の研究者が活用すべき支援や、海外と比較した際の日本の教育政策について、より深い議論をかわすことができました。企業就職や度重なる転居、子育て環境について、参加者の方々とやりとりも見られ、当企画の意義を感じる貴重な時間となりました。目まぐるしく変化する研究環境に対し、研究者の将来を予測することは難しいことです。思い通りにならないことが多い研究者のキャリアの中で、その時々状況を柔軟に捉えること

の重要性を、改めて認識する会となりました。限られた時間の中、参加者の皆様から頂いたご質問に全てお答えすることは叶いませんでしたが、キャリア問題は今後の企画でも取り扱う予定です。次回企画でも、皆様のご参加をお待ちしております。

### ●参加者の感想

参加者アンケートでは、15名の回答を頂きました。以下にその一部を紹介します。

・「博士課程に進学するのか迷っているの、現役の研究者や学生の話を知ることができて大変充実した時間となった」

・「パネルディスカッションは若手にとってとても興味のある内容だった(一部省略)」

当企画は、日本遺伝学会、木村基金の後援により開催されました。心より感謝申し上げます。また、講演をご快諾いただいた市原沙也先生、片岡研介先生、三好知一郎先生、平田たつみ先生に改めて御礼申し上げます。

(文責・庄司日和)